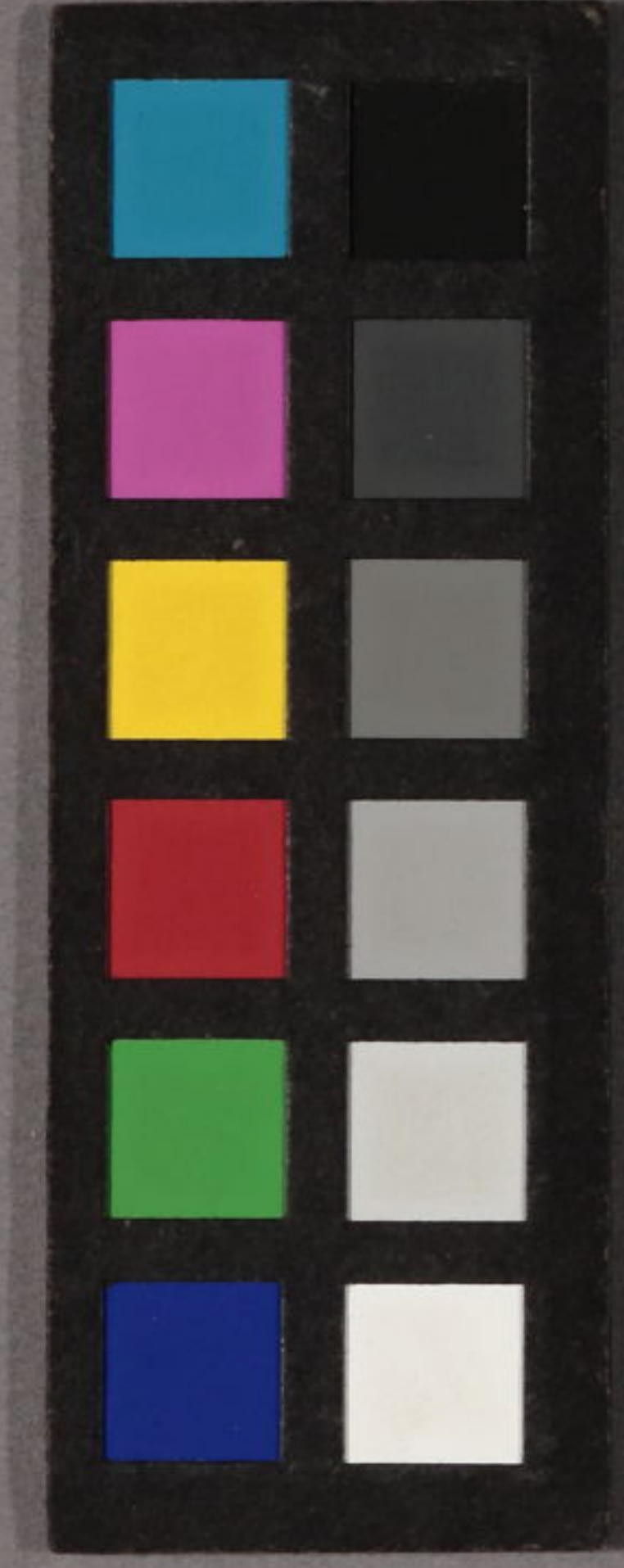


痴漢三人傳 全

^ 13

3132



二蛇と一蛇と一を叙と結らん。蛇も不出政と
 出ぬ序文の文。這哉復白鹿乃序也
 あり多や



感和亭

鬼武述



痴漢三人傳

武江 感和亭 鬼武著述

先年鼠和光の白馬鹿三人と移るものあり一人は
 和泉街乃長夫郎坊一人、浅草北阿婆一人、鹿の
 子候の息子ありト自指し此言に中なる者強はる
 遠く佐倉のやうに武蔵のやうな事なるといふや
 此の村に中兵衛と名をとりしとて麻州の里と
 此の里に此の里の子なる者著述とていふや



江戸一景



海へ目のおまじとむくつてはやくめくはぬくまを
 めくおる真ん中へひびくひのと喰いだと思へ
 小日やあかやうくが其がうさうさといふや
 油煙でも根生の悪ひたさういおれのうさうさ
 おろくがおんあひも美知りくちぢぢぢぢぢぢぢ
 美知斯後目のあふおれごめいごめいごめい
 のつてつまるよりサア〜
 さうい銘し真裸よりむくく衣類を取られ



美知斯後目

三人にぶらり〜
案ホ母の此土地で〜
来て〜
た〜
夜半清のか〜
おもひ〜
我男〜
向ひ〜

おれをよ値ひ〜
衣敷をよ〜
す〜
受〜
回ひ〜
由請を〜
つ〜
た〜

日なあれはのち千年来の事なれども
いふにやれと書かばあつて三人なる事なれども
後官僧徒のついでにいふ所もあつて
すゝあつていふ所もあつていふ所もあつて
役者もともむしの相違助高屋の海邊魚樂十町
なごころのいふ所もあつて相撲も丸山源氏とあつて
の居る所もあつていふ所もあつていふ所もあつて
とあつての事なれどもいふ所もあつていふ所もあつて

あつていふ所もあつていふ所もあつていふ所もあつて
女七ふと居る所もあつていふ所もあつていふ所もあつて
でいふ所もあつていふ所もあつていふ所もあつて
傳九自雄雄助敵役で七五良鬼次仲をあつて盛り
角力ハ谷風がとよでも大関祝加嶽里見山野嶽
温々関あつていふ所もあつていふ所もあつていふ所もあつて
近頃来つていふ所もあつていふ所もあつていふ所もあつて
一鉢の佛い店とあつていふ所もあつていふ所もあつて

おんをいけは頂沙波きうんせおつておんまの
体花めぐお姫様をともあつていふいふまへ
ありのゆるま冥官へ祈れられいおあめたまへ
おられまへて智尊君の定めらまければお入のお姫さま
虫がつめていらん王の道いざなまも動静を想した
眼鬼鼻鬼ぐらうまへていけのいもいれに冥官
とも目焼眼まの体花めを思はさんよのほま
園こーえお鬼廿かへいんていあひんかひいり

おどろおこいんせんちあつていづまおんまがまへ
体花が早に口いれうんと叫けバ引んたう今宵
おんまをサアそれるにぐのうんてい合書が
いん夜半ぐおあへいんていんていんていん
いんていんていんていんていんていんていん
寒れ河原のいんの音いんてい海らなせお冥
遠も虫のまおあへいんてい吹笛のおあふ
おはねのまおあへいんていおあふ

